教育学部　　前期日程

事前公開用
サンプル問題

令和７年度入学試験問題

小論文

（社会科教育コース）

注　意　事　項

１．この試験問題は試験開始の合図があるまで開かないこと。

２．受験番号を解答用紙の指定されたところへ正しく記入すること。

３．問題用紙と解答用紙は別になっている。解答用紙は問題（１）と問題（２）が別になっている。

４．解答は解答用紙の解答欄のマス目に記入すること。欄外に記入された解答は，採点の対象とならない。

５．数字，句点（ 。 ），読点（ 、 ），カッコ記号（ 「 ），（ 」 ）は１文字につき１マスを使用すること。

６．ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，監督者に申し出ること。

７．問題用紙の余白等は適宜利用してよいが，破いたり切り離したりしないこと。

８．試験終了時，解答用紙は記入の有無にかかわらず，全て提出すること。

９．この問題用紙と下書用紙は持ち帰ること。

前　期　日　程
小論文 **（社会科教育コース）**
問題用紙６頁中１頁目

事前公開用
サンプル問題

令和７年度信州大学教育学部入学者選抜試験

問題

善光寺地震（1847 年）に関する**資料１～資料４**から必要な資料を用いて，次の（１）（２）の問いに答えなさい。なお，資料を根拠として解答用紙に記載する場合には，「ＡはＢである（資料Ｘ）。」や「資料Ｘによれば，ＡはＢである。」のように使用した資料を明示し，下線を引くこと。

（１）**資料３**下線部（出典 12 頁 2 行目～4 行目の『　』部分）の意味が明らかになるように，善光寺地震の被害状況について 400 字以内で説明しなさい。

（２）善光寺地震の記録をどのように防災教育に生かすことができるか。資料をもとに 400 字以内で論じなさい。

資料１

（出典：内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」編『災害史に学ぶ』（内陸直下型地震編）平成 23 年 3 月，9 頁（一部改変））

前　期　日　程
小論文 **（社会科教育コース）**
問題用紙６頁中２頁目

事前公開用
サンプル問題

令和７年度信州大学教育学部入学者選抜試験

資料２

（出典：内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」編『災害史に学ぶ』（内陸直下型地震編）平成 23 年 3 月，10 頁（一部改変））

前　期　日　程
小論文 **（社会科教育コース）**
問題用紙６頁中３頁目

事前公開用
サンプル問題

令和７年度信州大学教育学部入学者選抜試験

資料３

前　期　日　程
小論文 **（社会科教育コース）**
問題用紙６頁中４頁目

事前公開用
サンプル問題

令和７年度信州大学教育学部入学者選抜試験

資料３（続き）

（出典：内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」編『災害史に学ぶ』（内陸直下型地震編）平成 23 年 3 月，12 頁～14 頁（一部改変））

前　期　日　程
小論文 **（社会科教育コース）**
問題用紙６頁中５頁目

事前公開用
サンプル問題

令和７年度信州大学教育学部入学者選抜試験

資料４

前　期　日　程
小論文 **（社会科教育コース）**
問題用紙６頁中６頁目

事前公開用
サンプル問題

令和７年度信州大学教育学部入学者選抜試験

資料４（続き）

（出典：内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」編『災害史に学ぶ』（内陸直下型地震編）平成 23 年 3 月，16 頁～17 頁（一部改変））

教育学部　　前期日程

事前公開用
サンプル問題

令和７年度入学試験問題

小論文

（社会科教育コース）

出題意図及び解答例

出題意図

（１）「善光寺地震」に関する資料を正確に読み取り，その被害が複合的であったことを適切に理解したうえで，この地震の被害状況を客観的な情報に基づいて論理的に記述できるかを問うている。

（２）過去の災害に関する資料を適切に読み解き，地理，歴史，公民の各観点から災害の原因や防災への備え，さらに被災後の対応や災害記録の保存・活用など，現代の防災教育に生かすことのできる情報を広く収集し，それらを自らの意見や提案として組み立て，論理的かつ説得力を有する文章として記述できるかを問うている。

事前公開用
サンプル問題

解答例

（1）**資料３**下線部（出典 12 頁 2 行目～4 行目の『　』部分）の意味が明らかになるように，善光寺地震の被害状況について400字以内で説明しなさい。

善光寺地震は長野盆地と山地の境目にある活断層に発生した内陸大地震であり（資料１）、その規模はマグニチュード７．４と推測される（資料２）。資料３によれば、震源域が町の直下にあったことから、強震動により多くの家屋が倒壊し、また門前町の灯火などが原因となり出火したことで、木造家屋の町に広範囲の延焼をもたらした。一方、山間部の村では大小４万か所以上で山崩れが発生し、家や畑が下敷きになった。岩倉山の大崩壊では、犀川がせき止められ震生湖が形成されたが、１９日後には決壊して千曲川下流域などの善光寺平一帯に大洪水となって流れ込み、低地の村に水害をもたらした。同様に、土尻川では１６日後、裾花川では４ヶ月後にせき止めが決壊して被害をもたらした。結果として、倒壊した家屋や土砂崩れの下敷きとなった直接的犠牲者だけでなく、その後に発生した焼死者や、洪水による水死者などの二次災害による犠牲者も多数発生した。　（395 字）

（2）善光寺地震の記録をどのように防災教育に生かすことができるか。資料をもとに400字以内で論じなさい。

善光寺地震の記録を防災教育に生かす方法として次の４つが考えられる。第一に、地震発生の原因である活断層（資料２）に着目し、そのメカニズムを学ぶことで地震災害を意識した土地利用について考えることができる。第二に、被害状況を詳細に伝える松代藩の記録や当時作成された瓦版、絵図等（資料４）を参照することで、災害を記録情報として保存・継承することの意義を理解することができる。第三に、地震が建物倒壊などによる直接的な被害だけでなく、火災や水害といった二次災害を引き起こすという被害の複合的性質を学ぶことで（資料３）、視野の広い防災対策を実践することができる。第四に、復興プロセスの記録から当時の松代藩による堤防建設緊急工事のような公共事業や、各藩が食料や金銭を配布するといった公助、共同体による共助、各自の備えとしての自助について理解し、長期的な復興計画の必要性についても学ぶことができる（資料４）。　（395 字）